

「ヘビイチゴの味」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

ヘビイチゴ *Potentilla hebiichigo* は全国各地の草地や林床に、ごく普通に見られる雑草である。都会の空き地や公園にも多い。子どもたちもほとんど全員が、その存在と和名を知っている、身近な野草だ。



「大学構内のヘビイチゴ」 SECのすぐ前
4~5月に開花、今の時期にちょうど結実する。

ヘビイチゴに対して抱いている、子どもたちのイメージを調査すると、面白い。5年生に聞いてみた。

【子どもたちがヘビイチゴにいだくイメージ】

- ・実が赤くてかわいい。
- ・おとぎ話に出てきそう。
- ・きっと、ヘビの餌になるイチゴ。
- ・毒があって食べられない。
- ・ヘビは食べても大丈夫だけど、人間はダメ。
- ・さわると、指がかぶれてかゆくなる。・・・

どうもマイナスのイメージが多いようだ。真っ赤な実の姿と、和名に「ヘビ」を冠していることも、毒があると思わせている原因のようだ。私も子どもの頃、小川町の祖母に「ヘビイチゴは毒だから食べてはいけない。」と言われた記憶がある。祖母の言うことはすべて正しいと思っていたので、ずっと信じていた。

実は、ヘビイチゴの実に毒があるというのは迷信で、無害である。迷信というのは「広く信じられている誤った常識」である。特にキノコの世界には迷信が多い。

有名なのは「赤いキノコは毒」「縦に裂けないキノコは毒」・・・いずれも迷信で、毒キノコに共通した特徴（見分け方）というものは存在しない。

というわけで、ヘビイチゴの実を食べても大丈夫である。その姿からは、甘酸っぱい味を期待するが、実際はほとんど味がなく、はっきり言ってまずい。

【ヘビイチゴを食べたことがある子どもの感想】

- ・まずかった。って言うか、甘いと思ったのに、味がほとんどしなかった。
- ・ぜんぜん味がなくて、スカスカで、発砲スチロールをかんでるみたいだった。
- ・実は小さいのに、まわりに種（実は種ではなく「瘦果」という果実の一形態）がたくさんついていて、味の無いゴマを食べているような感じだった。
- ・味は少し甘い・・・いや、やっぱりほとんど無味。でも、香りはちょっとイチゴっぽかった。



しかし、ヘビイチゴは観察の対象としては、非常に価値が大きいと思う。春に黄色い花咲いてから、比較的短時間で結実するので、継続観察に適している。実は立体感があり、ルーペや双眼実体顕微鏡の好対象となる。そこに、ヘビイチゴの価値がありそうだ。